

様式1

助 成 申 請 書

2010年4月9日

財団法人 北海道新聞野生生物基金理事長殿

申込者

住所 〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階
さっぽろ自然調査館内

団体（個人）名 北海道自然史研究会

代表者の氏名 会長 川辺百樹 印

連絡先

住所 〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階
さっぽろ自然調査館

氏名 事務局長 渡辺 修 TEL. 011-892-5306

推薦者

住所

氏名 印

推薦理由（推薦者がある場合）

--

次の通り助成を受けたいので申し込みます。

記

1 事業名 北海道内の自然史情報の集積とネットワークづくり

2 助成金申請額 710,000 円

3 提出資料

(1) 事業計画書1

(2) 事業計画書2

(団体参考資料 概要、会則、会員名簿)

団体等に関する資料

団体等名称 (個人)	北海道自然史研究会
設立年月日	1993年2月
会員数	129名
主な活動地域	北海道内全域
活動の目的および概要	(活動趣旨・目的) 「北海道自然史研究会」は、自然史系学芸員を中心に北海道内の自然史に関するネットワークづくりのために1993年に立ち上げられた。北海道の自然に関心があれば誰でも参加可能で、幅広い層の共同による自然史研究の発展とその成果の普及を目指している。 学芸員の組織は他にも北海道博物館協会の学芸員部会などがあるが、自然史系に特化したものはなく、また公務員の集まりである博物館協会では活動に制約も多く、具体的な取り組みなどはほとんどなされていなかった。そのため、市井の自然史研究者も含めた幅広いネットワークをつくり、地域単位では難しい広域的な調査研究や普及活動を連携して実施したり、研究発表会を通して互いの取り組みを深化させるために結成した。
	(活動実績) 1993年02月 設立／1993年09月 野外研修会(上川町・層雲峡)／1994年01月 第1回研究会(札幌・開拓記念館)／1994年10月 第2回研究会(沼田町)／1995年10月 第3回研究会(様似町)／1996年05月 第4回研究会(黒松内町)／1997年05月 第5回研究会(美幌町)／1998年05月 第6回研究会(倶知安町)／1999年10月 第7回研究会(標津・サーモンパーク)／2000年04月 第8回研究会(旭川・旭川市博物館)／2001年08月 第9回研究会(平取・二風谷博物館)／2004年03月 臨時集会・総会(札幌・博物館センター) ※会員メーリングリスト開始／2004年12月 2004年度研究会(札幌・北大総合博物館)／2005年10月 2005年度研究会(札幌・北大総合博物館)／2006年07月 2006年度研究会(遠軽・丸瀬布昆虫生態館)／2007年09月 2007年度研究会(登別・ヒグマ博物館)／2010年02月 2009年度研究会(札幌・博物館センター) ※ウェブサイト準備室開設

収支予算書

1、事業費(収入)

区分	予算額(円)	説明
自己資金	300,000	会費と寄付、冊子販売収益@210x900
その他		
財団助成金	710,000	
事業費合計	1,010,000	

2、事業費(支出)

主な経費	予算額(円)	説明
データ作成・ サイト作成費	286,000	データ入力・研究報告デジタル化(臨時アルバイト24日x@6,500)、 サイト製作・管理の補助(10日x@6,500)、冊子の編集作業補助(10日x@6,500)
印刷費・発送費	522,000	冊子印刷費(A5無線とじ80ページフルカラー2000部)、写真借上げ費、梱包費など
編集委員会旅費	81,000	冊子の編集およびポータルサイトの編集のための編集員打ち合わせ費用 (市内5名x4回x@500、旭川往復x3回上士幌往復x2回)、宿泊費
使用料・借上料 ・消耗品費	66,000	冊子の編集作業、サイト製作・管理に必要なパソコン・専門ソフトウェアの レンタル料(11ヶ月分)、消耗品費
通信費等	55,000	打ち合わせ・連絡用の郵送費、冊子送付時の郵送費、会議費、フォーラム会場費など
合計	1,010,000 円	

事業計画書

事業名	北海道内の自然史情報の集積とネットワークづくり
事業期間	平成22年 5 月 ～ 23 年 3 月
事業内容	<p>(目的) 北海道内には博物館など地域の自然史を紹介する施設が多くあるが、ほとんどの施設が資金・人員不足のために、調査・研究してきた自然史情報や研究報告をデジタル化しておらず、ウェブ上にも掲載していない。これらの情報は北海道の自然を知り保全活動や環境教育活動を行なう上で重要なものであるが、一般市民が有効活用できない状態にあり、地域の財政悪化とともに埋もれてしまう危険性がある。また、地域の自然を観察したり調査したりする環境系市民グループの活動成果にも貴重な情報があるが、それらの多くは少数の会員に配布される会誌の中のみにとどまっている。これらの情報を集積し、多くの人が利用できる形態へと転換を進めたい。</p> <p>当研究会は道内の自然史系学芸員を中心に構成されており、各施設の研究報告や地域の市民グループの情報を入手しやすい立場にある。それを生かして、自然史情報の効率的な収集を図り、それを通じて各施設・団体のネットワークの充実を図り、自然史研究のみならず、自然保護活動、環境教育に貢献することが期待できる。収集した論文や情報はデジタル化して集積し、当会のサイトから誰でも自由に検索、ダウンロードできるようにする。集積することでさらに情報を集めることが容易になり、北海道外へ広く情報発信することも可能となる。</p> <p>(地域) 実作業は主に札幌で実施、集積する情報は全道が対象</p> <p>(実施方法) ■自然史関連施設・市民団体の研究報告・会誌等の情報収集 会員を通じて、道内自然史系の展示施設・研究報告や市民団体の情報を収集する。 ■データベースおよびサイト構造の設計と製作 誰でも利用しやすい構造を検討し、設計する。データベースは施設情報・行事情報・研究者情報・研究報告論文情報などについて整備する。一般市民が投稿する写真や自然史への疑問に学芸員等会員が回答する掲示板も設ける。 ■紙データのスキャン・データ化、デジタルデータの変換 研究報告誌はデジタル化が進んでいないため、データがあるものは変換し、紙データは専用スキャナ・ソフトを用いてデジタル化(透明テキストPDF)する。これらをポータルサイトに掲載して、市民が検索・閲覧が出来るようにする。 ■展示施設とポータルサイトを紹介する冊子の作成 ポータルサイトの周知を図り、普段ネットを利用できない人でも基本情報を活用できるような冊子を製作する。冊子では主要な展示施設をビジュアルに紹介し(メイン紹介は30館程度)、展示物や学芸員についてのデータベース情報を整理して記載する。また、会員のコラムやミニ情報等により一般読者が楽しめるものにする。この冊子は各施設などにおいて頒価で販売する。</p> <p>(期待できる効果) 過去に道内で取り組まれた自然史の調査・研究情報をデータベース化して閲覧できるようにすることで、将来それに取り組もうとする市民のレベルアップの場となり、また情報を提供する場ともなる。地域の自然環境の情報収集は、行政機関や大学等のみが担うのでは不十分で市民レベルでの取り組みが広がるのが重要と考えている。</p> <p>今回計画しているポータルサイトは、今後の新たな自然史研究の発表の場としても期待できる。出版のコストが低いデジタルデータ(電子出版)で半永久的に情報として残すことができ、ウェブという多くの人が見る可能性がある場として、このサイトは機能できる。地域の自然に関する情報やさまざまな取り組みを記録しようという市民の手助けとなることで、保全活動や環境教育活動を支援できると考えている。</p> <p>また、このポータルサイトは道内の自然紹介施設の新たなインターフェースになり、各施設の情報へのアクセス性を高め、地域の自然への関心を高める手がかりになる。また、サイト上での博物館友の会や市民グループどうしの交流など、新たなネットワークの構築にも寄与でき、広域的な一斉調査や観察会の実施に発展することも期待できる。</p>